

令和3年度 自己評価書・学校関係者評価書

■ そう思う ■ どちらかといえば、そう思う ■ どちらかといえば、そう思わない ■ そう思わない ■ 無回答

### ①豊かな心をはぐくむ教育の推進

<h4>1 一人一人の児童生徒の尊重</h4> <p>学校は、一人一人の子どもを大切にされた指導や対応ができていますか。</p>	<h4>2 友達への思いやり</h4> <p>子どもは、友だちとなかよくしていると思いますか。</p>	<h4>3 道徳・心の教育の充実</h4> <p>学校は、豊かな人間性を育む心の教育の充実に努めていると思いますか。(礼儀、生命尊重、思いやりなど)</p>
<p>1一人一人の児童生徒の尊重では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、昨年度に比べ保護者は約5%減少した。                  2友達への思いやりでは、保護者、生徒、教職員ともに約95%程度ととても評価が高かった。これは昨年度と同じであった。                  3道徳・心の教育の充実では、保護者、教職員とも昨年度とほぼ同じであった。                  これらのことから、全体的な評価は高いが、さらに生徒一人一人を大切にされた指導回り、保護者と連絡を密にする必要があると考えられる。</p>		

### ②確かな学力を育む教育の推進

<h4>4 意欲的な学習態度</h4> <p>子どもは、意欲的に授業に取り組んでいると思いますか。</p>	<h4>5 授業力向上</h4> <p>先生方は、わかる授業、楽しい授業づくりに努めていると思いますか。</p>	<h4>6 タブレット端末活用</h4> <p>子どもは、タブレット端末を活用して学習していると思いますか。</p>
<p>4意欲的な学習態度では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、昨年に比べ保護者は約8%減少しているが、教職員は逆に約8%増加している。                  5授業力向上では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、教職員が98%と高かったが、生徒・保護者の割合は昨年度を約5%下回った。                  6タブレット活用では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、昨年と比べ保護者は約12%減少した。                  以上のことから、家庭ではタブレットを使って学習をしている割合が減少しているため、タブレットを使う必要がある宿題を出すことも必要かもしれない。</p>		

### ③健やかな体を育む教育の推進

<h4>7 健康づくり</h4> <p>子どもは、好き嫌いをなく食事をし適度な運動と十分な睡眠に気をつけて生活していると思いますか。</p>	
<p>7健康づくりでは、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、教職員・生徒・保護者の全てで昨年度と同程度であった。今後とも健康的な生活づくりのための情報発信に努めていく。</p>	

<h3 style="text-align: center;">①いじめ不登校などに対する相談支援体制の充実</h3> <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse;"> <tr> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。</p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p> </td> <td style="width: 33%; vertical-align: top;"> <h3 style="text-align: center;">②特別支援教育の推進</h3> <h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p> </td> </tr> <tr> <td colspan="3"> <p>8児童生徒理解では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、昨年とほぼ同じであった。                  9いじめや問題への対応では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が保護者のみ昨年度より約5%減少したが、教職員は100%であった。                  10学校の支援体制でも、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が保護者のみ昨年度より約5%減少した。                  以上のことより、教職員は生徒理解に努め、自己肯定感・自己有用感を育む指導を行っているため、保護者との連携を深める必要があると思われる。</p> </td> </tr> </table>	<h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。</p>	<h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<h3 style="text-align: center;">②特別支援教育の推進</h3> <h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>	<p>8児童生徒理解では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、昨年とほぼ同じであった。                  9いじめや問題への対応では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が保護者のみ昨年度より約5%減少したが、教職員は100%であった。                  10学校の支援体制でも、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が保護者のみ昨年度より約5%減少した。                  以上のことより、教職員は生徒理解に努め、自己肯定感・自己有用感を育む指導を行っているため、保護者との連携を深める必要があると思われる。</p>		
<h4>8 児童生徒理解</h4> <p>先生方は、子どものよさを見つけ、子どもを理解しようとしていますか。</p>	<h4>9 いじめや問題への対応</h4> <p>学校では、いじめや問題があったとき、すぐに話を聞いて対応していると思いますか。</p>	<h3 style="text-align: center;">②特別支援教育の推進</h3> <h4>10 学校の支援体制</h4> <p>学校は、支援を必要とする子どもの教育について、共通理解を図りながら取り組んでいると思いますか。</p>				
<p>8児童生徒理解では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、昨年とほぼ同じであった。                  9いじめや問題への対応では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が保護者のみ昨年度より約5%減少したが、教職員は100%であった。                  10学校の支援体制でも、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が保護者のみ昨年度より約5%減少した。                  以上のことより、教職員は生徒理解に努め、自己肯定感・自己有用感を育む指導を行っているため、保護者との連携を深める必要があると思われる。</p>						

<h3 style="text-align: center;">②特別支援教育の推進</h3> <h4>11 共生社会を担う人材の育成</h4> <p>「交流及び共同学習」等の実施は、相互理解の促進につながっていると思いますか。</p>	<h3 style="text-align: center;">①子どもたちの身近な安全対策の充実</h3> <h4>12 安全と事故防止</h4> <p>学校は、子どもの事故防止などの安全教育に取り組んでいると思いますか。</p>
<p>11共生社会を担う人材の育成は、本年度から新たに加わった項目である。「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計は、当事者である生徒が一番高く、有用であることがうかがえる。                  12安全と事故防止では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、昨年と比べ保護者のみ約5%減少している。今後も安全教育の推進に取り組んでいく。</p>	

## ②最適な学習環境の整備

<h3>13 施設・設備の安全管理</h3>	<h3>14 教育方針・目標の理解</h3>	<h3>15 家庭や地域との連携協力</h3>
<p>学校の施設・設備は、安全でよく整備・管理されていると思いますか。</p>	<p>学校は、教育方針や教育目標などを、子どもや保護者地域にわかりやすく示していると思いますか。</p>	<p>学校は、家庭や地域と連携・協力しながら教育活動を進めていると思いますか。</p>
<p>13施設・設備の安全管理では、保護者、教職員に比べ、生徒の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が78%に留まった。本校では、やや強い雨が降ると、雨漏りが見られるので改善が必要である。</p> <p>14教育方針・目標の理解では、保護者の「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、昨年度より約8%低下しているが、教職員では逆に約8%増加している。</p> <p>15家庭や地域との連携協力でも、昨年度と比べ保護者は低下し、職員は増加した。学校通信が毎週出るなど発信力が向上しているが、さらに保護者に認知されるよう努めていく。</p>		

## ⑧本校の教育

<h3>16 挨拶・コミュニケーション</h3>	<h3>17 学校教育目標</h3>	<h3>18 主体的な活動</h3>
<p>子どもは、気持ちの良い挨拶や他の人とのコミュニケーションができていますか。</p>	<p>子どもは、気づき・考え・行動することができていますか。</p>	<p>学校は、子どもの主体的な活動の場を提供していると思いますか。</p>
<p>16挨拶・コミュニケーションでは、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、教職員だけ約58%と、保護者、生徒の評価より低いが、昨年よりは15%ほど上昇した。</p> <p>17学校教育目標では、昨年度とほとんど変化がなかった。</p> <p>18主体的な活動では、「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合計が、教職員だけが73%程度と保護者、生徒の評価より少し低いが、昨年度より15%ほど向上した。以上の結果から、教職員の評価が特に低かった、気持ちの良い挨拶やコミュニケーション能力の育成と学校教育目標の具現化に向けた取組を教育重点項目として取り組んでいく。</p>		

## 来年度の具体的な取り組みについて

- 豊かな心を育む教育の推進として、①「仲間づくり」「ルールづくり」活動、学校行事、生徒会活動等をおし、望ましい集団づくりに努める。②道徳教育、人権教育等をおして「心の環境整備」と「校舎内外の環境整備」を図る。③キャリア教育を推進し学びに向かう力の育成に努める。
- 確かな学力を育む教育の推進として、①タブレットを用いたわかりやすい授業改善に取り組むとともに、家庭学習での活用を促す。②ノーチャイムを誇りとし、学習の合言葉「にしががおか」の定着を図る。③「授業づくりの5つ視点」を根拠に据えた授業研究会をおして、教職員のスキルに応じた授業力の向上に努める。
- いじめ・不登校などに対する相談支援体制の充実として、①生徒とのかかわりを密にし、日常生活や生活ノート・アンケート等により、生徒の変化やいじめ事象の早期発見に努める。②全教育活動を通して、生徒の対人関係のスキルアップに努める。③支援が必要な生徒には、クラスの生徒や保護者の理解を得て、情報を共有し、チームで対応する。④SC・SSWと連携して、不登校の早期対応に努めるとともに、継続かつ丁寧な対応を心がける。
- 子どもたちの身近な安全対策の充実として、①日常的・定期的な安全点検活動を強化・徹底する。②学期1回の避難訓練を充実させる。③SNSや自然災害熱中症対策などいろいろな場面や状況で、自分の命は自分で守ることの大事さを理解させる。
- 挨拶・コミュニケーション能力の育成として、教職員が校門や教室で元気な挨拶で生徒を迎え、あらゆる機会に生徒を認め励まし誉める。
- 主体的な活動として、学年行事や学校行事等で生徒が活躍できる場を設定し、生徒が主体的に計画・立案・運営できるようにする。
- 働き方改革として、面接や声かけ等で個人の負担の状況を把握し、業務を複数で取り組む等の工夫を図る。

## 学校関係者評価

- 豊かな心をはぐくむ教育の推進について
  - ・保護者、生徒、教職員ともに「そう思う」「どちらかといえば、そう思う」の合計が、あまり変わらないことがとても評価できると感じています。
  - ・先生方は、自信をもって自分を評価し、ポイントを上げてほしいと思います。
  - ・生徒の友達への思いやりについての評価が高い点に安心を覚えます。先生、保護者の指導や対応の評価が反比例しているのは、まだまだ出来ることあるとの思いが強くなるのだろうと想像します。
- 確かな学力をはぐくむ教育の推進
  - ・項目5「学力向上」について、保護者・生徒と教職員の回答の差が気になります。ただ、項目4「意欲的な学習態度」について、生徒の評価が一番高いのはうれしいです。教職員の評価も昨年に比べ高くなっていることも素晴らしいです。
  - ・授業力の向上の高評価に日ごろの先生方の努力が想像できました。タブレットの活用については、休校の多い昨年と比較した部分が大きく出ているものと思いますが、活用の差が今後、学校単位で大きく違いが出てこないか気になります。不登校の生徒にオンライン授業で活用されている面も非常に良いことと思います。
- 健やかな体をはぐくむ教育の推進について
  - ・家庭と学校との差は何なのだろう？と感じます。
- いじめ不登校に対する相談支援体制の充実について
  - ・項目9「いじめや問題への対応」に関して、先生方が100%と回答していることに、先生方の意欲を感じました。
  - ・項目9「いじめや問題への対応」に関して、教職員の回答が100%であるがゆえに、保護者、生徒のギャップがとても気になります。このギャップにより、苦しむ生徒や保護者がとりこぼされないように願っています。
  - ・先生方の心血を注いだ対応が必ずしも理解されていないのでは
- 特別支援教育の推進について
  - 昨年と比較すると、先生の評価も下がっているところが気になりました。保護者も下がっているのには、何か背景があるものと想像します。特別支援教育のアンケート項目が増えている、より理解しあえる環境作りを考えるきっかけのひとつになっていくものと思いました。
- 子どもたちの身近な安全対策の充実について
  - 先生の評価に「そう思わない」との回答がある部分が気になります。昨年は、この回答がなかったため、どこに問題があるのか探ってみる必要があると思いました。
- 最適な学習環境の整備について
  - 施設の老朽化についての調査はされているものと思いますが、不安の要因になっているのであれば、原因を探る必要があるものと思いました。
- 本校の教育について
  - 主体的な活動の向上が見られ、先生方の更なる努力がうかがえました。気づき・考え・行動力については、学校内だけで教育できるものではなく、家庭内や地域での大人との関わり方でも大きく変化できるものと考えます。肯定感をより与えられる教育を私たちも心掛けたいと思います。